

徳島大学就職支援団体「ACTIVE」の活動報告

山口喜堂¹⁾ 山野明美²⁾ 井上琢斗¹⁾

- 1) 徳島大学大学院 先端技術科学教育部 知的力学システム工学
- 2) 徳島大学 総合教育センター キャリア支援部門

1. はじめに

「ACTIVE」とは、徳島大学（以下、本学という）のキャリア支援室と連携し、本学学生の就職活動を支援することを目的とした就職活動団体である。当団体は本学の学部学生及び大学院学生から組織している。2010年10月、当時の徳島大学就職支援室の就職活動支援担当キャリアカウンセラーであった山野明美が相談業務中、就職早期内定者に呼びかけ発足した。当初の目標は本学内の就職支援室の存在を周知啓発することとしていた。しかし、2章以降で説明する通り、様々な活動を通して学生に対して十分に就職支援室を認知していただけたため、現在は目標を「徳島大学の学生が主体性を身に付けること」および「コミュニケーション能力を高める」としている。行動意欲のある学生を巻き込み活動を続けている。本論文では、「ACTIVE」の5年間の活動記録報告および「ACTIVE」主催で実施した各イベント参加者によるアンケート調査から見える徳島大学学生の主体性の向上と今後の課題について考察する。

2. 大学祭での活動

徳島大学就職支援団体「ACTIVE」の最初の活動は2010年度に徳島大学常三島キャンパス大学祭で行われた。目的は就職活動を控えた学生を対象に就職活動を終えた企業内定者が口頭発表を行い就職活動に対する意識の向上とした。本学の大学祭での実施という背景に、大学祭には多くの行動意欲のある学生が集まるだけでなく、本学の大学祭は10月末～11月上旬に実施されており、これは就職活動生が活動中もしくは活動開始間際の期間であるため、多くの参加者を見込めると考えたことである。事実、「ACTIVE」メンバーはTV

番組の広報活動にも積極的に出演し、保護者を含めた参加者は100名以上であった。以下に大学祭での活動内容を示す。

- ① 内定者の内定報告会およびポスター展示
- ② 内定者による学生相談コーナーの開設
- ③ 就職相談ブース（担当 山野）
- ④ アセスメント診断（担当 山野）
- ⑤ 就職活動のための「グループディスカッション 模擬練習」
- ⑥ 就職カフェコーナー設置

3. 人材育成のプロによる講演会

2014年5月にNPO法人ETIC. アドバイザーの川崎克寛氏を招き、講演とワークショップを2日にかけて実施した（図-1、図-2参照）。1日目の講演では学生に対して仕事をするこの意味を考え、社会人になった自分を想像してもらうことを目的としている。また、ワークショップについては、GD（グループディスカッション）を通して、就職活動までにすべきことについて考えるカリキュラムとした。2日目のワークショップについては、企業が求める人物像について、熱心なディスカッションを展開した。当日は、本学の学部1年生、修士課程2年生、他大学学生（高知大学・慶応義塾大学）、他大学教員（松山東雲女子短期大学）と幅広い参加者が集まった。講演会終了後には参加者へのアンケート調査を実施した。その結果を図-3に示す。結果より、来場者の60.8%が就職活動における情報入手を目的としていることが分かる。また、就職活動解禁の11ヶ月前の5月での実施であるため、就職活動についての知識が乏しく、不安を抱く学生が多いことが確認できた。



図-1 第1部 講演会の様子



図-2 第2部 グループワークの様子

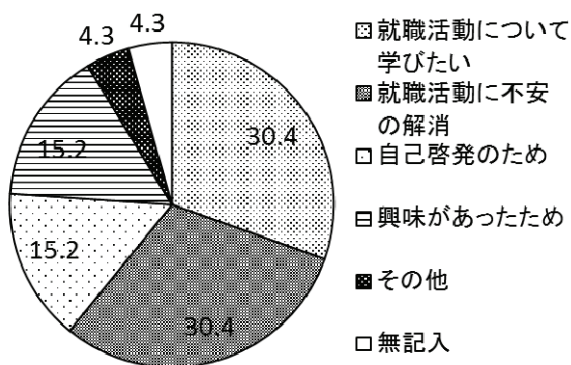


図-3 参加者の来場目的アンケート結果(%)

4. 上級コミュニケーション検定試験の実施

現在の就職活動において、新入社員に求める能力の1つとしてコミュニケーション能力が挙げられているのは周知の事実である。なぜなら、社会生活は、人と人のコミュニケーションによって営まれており、コミュニケーションが組織や人間の成長を決定する重要な要素だからである。そこで、「ACTIVE」では社会人基礎力の向上を目標に上級コミュニケーション検定試験のための研修

会の実施および試験をこれまで10回実施している。また、これまでに90名が上級コミュニケーション検定試験に取り組んだ。今後、本学の強みとしてコミュニケーション能力の向上を図る契機としたい。さらに、「ACTIVE」の活動を通して、社会人と交流を持つ機会を積極的に企画していきたいと考えている。現在、企画の具体例として2014年11月16日に「人事担当者と語る会」を予定している。

5. まとめ

最後に「ACTIVE」の目標と役割について考察する。本論文の文頭で述べたが、「ACTIVE」の目標は「徳島大学の学生が主体性を身に付けること」である。「ACTIVE」はこれまでに幾度かイベントを行い、多くの学生に就職活動の情報を提供してきた。世間的にみると活動的な「ACTIVE」メンバーであるが、元々主体性を身に付けた学生であったわけではない。サークル活動や部活動にも属さない学生もメンバーには非常に多い。しかし、「ACTIVE」の活動を通して成長し、徳島大学を代表する学生になったケースがある。共同著者の井上氏もその中の一人であり、現在は「トビタテ！留学 JAPAN」でカンボジアに留学している。このように「ACTIVE」の活動を通して、主体性を身に付ける等、目標を達成している。

続いて「ACTIVE」の持つ役割に関して述べる。徳島大学では、先輩の活動記録はあまり受け継がれていないのが実状であり、学科によっては就職活動記録がまとめられているが、学生への認知が低い。一方で、研究室や、サークルなどの小規模のコミュニティ内では引き継ぎがある程度認められる。

こうした環境の中、「ACTIVE」のこれまでの活動で、先輩の経験談を発表する場を設けることで広く就職活動の活動記録を知る機会を提供してきた。今後もこうした活動を続けていくことが就職支援団体「ACTIVE」としての重要な役割だと考えている。